



マグニチュードって何なの

地震のエネルギーの大きさ

大きな地震でも、震源地から遠いときには、震度が小さくなります。震度によって、地震そのものの大きさを、表すことはできません。マグニチュードは、地震そのものの大きさ（地震のエネルギー）を、表す単位です。

日本では、マグニチュード7以上を大地震、5以上7未満を中地震、3以上5未満を小地震とよんでいます。

マグニチュードが7以上だと、かなり大きな地震で、8以上は、巨大地震といわれています。1995年1月17日、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）を起こした地震は、マグニチュード7.2と発表されています。

都市の真下で起こる直下型地震は、マグニチュード6ぐらいでも、大きな被害をもたらすことがあります。

マグニチュードが2増えると、エネルギーは1000倍になる

マグニチュードの数字が2倍になれば、地震のエネルギーが2倍になる、というわけではありません。おどろくことに、マグニチュードが、1増えると、地震のエネルギーは、約32倍に、マグニチュードが2増えると、 32×32 で、エネルギーは、約1000倍になります。

マグニチュード8の地震は、マグニチュード6の地震の約1000回分のエネルギーがある、ということになります。（監修・国司 真）

